

音楽鑑賞教育における「体を動かす活動」のあり方に関する一考察

— 実践を通して見えてくる学習効果と課題 —

A study of physical movement activities in music appreciation education

— Learning effectiveness and issues revealed through practice —

長 島 礼 *

Abstract

The aim of this study was to examine physical movement activities in music appreciation education. How we learn musically through physical reaction to a musical tune was examined through case study research.

Results showed that in terms of visualizing music and verbalizing those images, thoughtfully and attentively listening to the music and paying attention to its finer details could deepen understanding of the piece of music. However, it was apparent that some students found it difficult to transfer verbalized images into physical expression. Also, it seemed that students mainly learned the pleasure and satisfaction of collaborative activities with friends, rather than about music.

The author considered that widening vocabulary related to movement was effective in music appreciation education, but in this case study, it turned out that attention was mainly paid to movement, and activities ended up being done with the aim of moving rather than musical learning. Further exploration is needed on how physical movement activities can be incorporated into music appreciation education.

キーワード：音楽鑑賞教育、体を動かす活動

1. はじめに

音楽の鑑賞教育に「体を動かす活動」を取り入れる場合には、身体活動そのものが目的のではなく、音楽の学習目的を達成する為に「体を動かす活動」を取り入れることが留意点として挙げられている。すなわち指導者には、学習目的と身体活動の適合性や実践方法についての能力が問われる。筆者は過去の調査¹⁾にて、小学校音楽科教育法のテキスト類を基に、特に鑑賞活動における「体を動かす活動」の捉え方や実践方法について整理分析を行った。ここでは、主な活動事例として、手拍子、歩く、指揮者の真似をする、といった一般的な活動や、音楽を構成する要素を体で表現する、曲想に反応する(踊る)、というような自由度の高い事例が紹介されていた。冒頭で述べたように、音楽の鑑賞教育におけ

る「体を動かす活動」は、身体活動そのものが目的ではない。しかし、音楽の構成要素の理解や、意思伝達の手段としての身体活動において、動きのボキャブラリーを豊かにすることは必要であると考えられる。

本研究は、音楽の鑑賞教育における「体を動かす活動」のあり方を検討する基礎的な研究として、「曲想に身体反応するという活動を通して、我々がどのような学びをするのか」ということを、筆者が指導者となった事例研究から検討することを目的とする。

2. 研究方法と手続き

(1) 研究方法

活動終了後に学生が記述する振り返りシートにより、本活動における学び、及び、感想等の記述内容

* Rei NAGASHIMA 教育学部専任講師

1) 長島礼 (2016.3発刊予定)「小学校『音楽科』における『体を動かす活動』に関する研究—『小学校学習指導要領』と『小学校音楽科教育法』のテキスト類の分析—」神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要第9巻第2号

を分析する。なお、研究方法の一部について、菅沼(2008)の研究を参考にする。

対象者 : 筆者が担当する「身体表現教育(保育者養成を目的とした学科の学生が受講)」の授業における学生80名(Aクラス40名、Bクラス40名)。

課題 : サン=サーンス作曲「動物の謝肉祭」より「序章～ライオンの行進」を聴き、曲からイメージしたことを言語化し、身体表現活動に繋げる。曲名は活動終了後まで伝えない。

活動形態 : 1グループ10名程度のグループ活動。

活動日 : 2015年6月15日、22日、29日の3日間で、活動時間は各1時間程度。2015年7月6日に発表日を設ける。

評価 : 発表終了後、各自、振り返りシートによって本活動を振り返りながら、活動を通しての学び、及び、感想などを記述する。

(2) 活動の流れ、及び、学習のねらい

表1は、6月15日、22日、29日、7月6日の活動の流れ、及び、学習のねらいについてまとめたものである。

(3) 振り返りシートについて

7月6日のグループ発表の後、本活動における自分自身の振り返りとして、振り返りシートによって、質問1)～質問4)の質問項目について回答を求めた。質問1)～質問3)は個人活動について、

質問4)はグループ活動についての問いである。

質問1)初めてこの曲を聴いた時に、どのように感じましたか。

第1印象を答えて下さい。

質問2)この曲に対して、あなたが考えた「タイトル」を教えてください。

質問3)音楽を聴いて「タイトル」や「ストーリー」を考えると、いった作業をする前後で、音楽の聴こえ方に変化があれば教えてください。

質問4)グループでの創作活動の過程で感じたことを述べて下さい。

3. 結果

(1) 楽曲の印象について

質問1)の結果が以下である。本活動では、被験者である学生のイメージを下に活動を進めるため、楽曲のタイトルは活動終了後まで伝えない。

質問1)初めてこの曲を聴いた時に、どのように感じましたか。第1印象を答えて下さい。

①楽曲の明暗について述べられたもの

- ・明るい部分と暗い部分がある……………12名
- ・暗い曲……………8名
- ・軽快なところと、重いところがある……………3名
- ・明るい感じ……………2名
- ・明るいというよりは暗い曲……………2名
- ・優雅だけど少し暗い曲……………1名
- ・楽しいような暗いような……………1名
- ・明るいような悲しいような……………1名

表1 活動の流れ、及び、学習のねらい

	日付	活動の流れ	学習のねらい
①	6/15	【個人活動】 ①音楽(「動物の謝肉祭」)を聴く。 ②音楽を聴いてタイトルを考える。 ③タイトルに基づき、音楽からイメージするストーリーを考える。 ④ストーリーの発表。 ----- 【グループ活動】 ⑤グループ決定(1グループ10名程度) ⑥メンバーの意見をまとめながら、音楽に適したタイトルを1つに絞り、音楽の展開にそったストーリーを身体表現のみで表現する。	・イメージをもって音楽を聴く。 ・各人が聴き取ったものをクラスで共有し、他者の感じ方を知る。 ・イメージを言語化することによって自分の感じたことや考えたことを整理する。 ・グループで協力し創作活動に取り組む。
②	6/22	グループ活動	・グループで協力し創作活動に取り組む。
③	6/29	グループ活動	・十分に練習を重ね、即興的な動きをなくす。 ・客観的な視点を考慮して動きを考える。
発表	7/6	①グループ発表 ②振り返りシートの記入	・自己評価 ・他者理解

②楽曲の印象について述べられたもの

- ・怖い感じ……………7名
- ・ドキドキ、ハラハラ、迫ってくるような感じ……………5名
- ・不気味な曲……………4名
- ・重々しい感じ……………3名
- ・聴いたことのあるような音楽だと思った……………3名
- ・躍動的な感じ……………2名
- ・あやしい感じ……………2名
- ・厳かな印象……………2名
- ・ワクワクした感じ……………1名
- ・面白い曲だと思った……………1名
- ・いやらしい感じ……………1名
- ・不思議な曲……………1名
- ・心の葛藤……………1名
- ・曲調の変化が激しいと思った……………1名

③具体的なイメージについて述べられたもの

- ・強そう、何かと戦っている感じ……………14名
- ・兵隊が行進しているイメージ……………4名
- ・力強い踊りを連想させる……………1名
- ・大草原のなかを、動物たちが歩いている感じ……………1名
- ・明るい空に暗雲が立ち込めるような感じ……………1名
- ・夜中に何か移動している感じ……………1名
- ・悪者が洞窟の中から叫んでいるような感じ……………1名
- ・何か悪いことをしようとする感じ……………1名
- ・ヴァイオリンの音色がきれいだった……………1名

質問1)の結果より、曲想の変化を聞き取った学生が多くいることが示された。「明るく軽快で楽しそうな曲」というよりは、「怖い感じ、迫ってくるような感じ、強そうで何かと戦っている感じがする」という印象をもった学生が多く、「序章～ライオンの行進」という本来のタイトルにある、作曲者のイメージした曲想を掴んでいる様子が窺える。

(2) イメージの言語化について

質問2)の結果が以下である。前述したが、本活動では、被験者である学生のイメージを下に活動を進めるため、楽曲のタイトルは活動終了後まで伝えない。

質問2) この曲に対して、あなたが考えた「タイトル」を教えてください。

- ・「冒険」関連のタイトル……………13名

- ・「行進」関連のタイトル……………7名
- ・「海賊」関連のタイトル……………6名
- ・「戦い」関連のタイトル……………5名
- ・「盗賊／泥棒」関連のタイトル……………5名
- ・「宮殿での宴」関連のタイトル……………4名
- ・「嵐」関連のタイトル……………4名
- ・「いたずら」関連のタイトル……………2名

その他

- ・「努力」・「前進」・「挑戦」・「revenge」・「勇敢な若者たち」・「自分」
- ・「王様の登場」・「王女の運命はいかに?!」・「王と傭兵」・「騎士」
- ・「白雪姫の継母」・「女王様の日」・「迷宮」・「お城の中へ」・「動物王国」
- ・「夢の中では・・・」・「怖い夢」・「村の祭り(儀式)」・「魔法」・「森」
- ・「怪我をした猫」・「ある男の悲劇」・「都会への憧れ」
- ・「逃げ惑う犬と追いかける狼」・「ヒーローになるまで」・「不思議の国の少年」等。

質問2)では、様々なタイトルが挙げられた。音楽の聴取がいかに個人的なものであるか、ということが示された結果であった。

(3) イメージの言語化が及ぼす楽曲聴取への影響

質問3)の結果が以下である。

質問3) 音楽を聴いて「タイトル」や「ストーリー」を考えるとといった作業をする前後で、音楽の聴こえ方に変化があれば教えてください。

3)ー① 音楽とイメージの関係についての記述

- ・他者に影響され、曲に対するイメージが変わると、曲の聴こえ方も変わる。(暗い曲だと思っていたものが明るい曲に捉えられるようになる)……………14名
- ・最初はただの音楽にしか聴こえなかったが、ストーリーを細かく考えながら回数を重ねて聴いているうちに、様々なイメージが浮かんできた。……………12名
- ・仲間とイメージを共有することで、互いのイメージがどんどん広がっていった。……………9名
- ・自分の中でストーリーが固定されると、違うストーリーで聴くことが難しくなる……………6名
- ・作曲者が何をイメージして作曲したのか知りたくなった。……………1名

3) - ② 音楽を注意深く聴くことによる、聴こえ方の変化についての記述

- ・最初は音楽の全体を聴いていたように思うが、ストーリーを考
える過程で、細かい飾りの部分も意識して聴くようになったよ
うに思う。……………7名
- ・強弱や音の高低、クレッシェンドなどに注意して聴くよになっ
た。……………4名
- ・特徴的なところがよく聞こえるようになった……………3名
- ・イメージをもって聴きこむうちに、最初は聞きのがしていた細
かな音の動きに気付くようになったり、一方で、曲全体の大き
な動きを捉えようとしたり、聴くたびに曲への理解が深まって
いった。……………1名
- ・場面が変化していること（区切りがある）、強弱が多くあること
に気が付いた。……………1名

質問3) - ①の結果より、楽曲に対するイメージが、楽曲聴取に強い影響力を及ぼすことが示された。イメージを言語化し他者と共有することで、楽曲に対する互いのイメージが膨らむ、言い換えれば、聴き取り方の幅が広がる、といった肯定的な記述がある一方で、自分の抱くイメージが強く、他者のイメージで聴くことに困難さを感じる、という意見もある。両者とも、他者の感じ方や考え方を知る機会をもつことで、個人的な音楽の聴取経験では味わえない経験をする。そのことに意味がある。

一方、質問3) - ②の結果では、「ストーリーを考
えながら聴く」という条件を課したことで、必然的
に、音楽を注意深く聴くことに繋がった。何回も聴
き込むことを通して、曲の全体像や曲の細部に注意
を向けながら、音楽の強弱や高低、音楽の構成など
に気付き、曲への理解を深めていった様子が窺え
る。

(4) 楽曲のイメージを身体表現によって表現する活動について

質問4)の結果が以下である。

質問4) グループでの身体表現活動の過程で感じたこと
を述べて下さい。

4) - ① 難しいと感じた点についての記述

- ・イメージが浮かんでも、それを具体的な表現として、客観的に
見てもわかりやすく身体表現するのは難しい。……………18名
- ・みんなのイメージをまとめていく過程が難しい。……………4名

- ・曲から情景を思い浮かべるのは難しい。……………3名
- ・自分のイメージを言葉にすることが難しい。……………2名
- ・音楽という縛りと、言葉を使えない縛りがあるので、具体的な
イメージがあっても、身体表現のみで表現することが難しい。
……………2名
- ・これまで、明るい曲やリズムカルな曲で体を動かすことが多かつ
たが、今回は重々しい曲で、しかもストーリーを身体表現しな
くはならず難しい。……………1名
- ・自分のイメージする内容と異なるものを身体表現することに多
少の抵抗感がある。……………1名

4) - ② 学びに関する記述

- ・他の人の「タイトル」や「ストーリー」を聴くことは、自分の
イメージとは違うものを知ることや共通したイメージをもって
いることを確認することに繋がり、視野が広がり面白い。…16名
- ・難しい取り組みも、仲間と知恵を出し合うことによって達成で
きると考えるとわくわくする。……………5名
- ・皆が1つのイメージを共有して身体で表すことは難しいが、深
く考えられるので楽しい。……………4名
- ・あらゆる案が出てくるため、最終的にどうなるのか楽しみ。4名
- ・同じようなイメージで曲を聴いていても、細かいところは各自
違って面白。……………2名
- ・創作の仕方はいくつもあって、1つの曲でもいろいろな表現が
できて面白い。……………2名
- ・他者と自由に意見し合える活動は大切だと思った。……………2名
- ・イメージはその人の、それまでの経験に影響を受けるのではな
いか、と思った。……………1名

4) - ①の結果より、学生達が活動の過程で難し
いと感じたことは、主に以下の2点であることが示
された。つまり、音楽から受けたイメージを身体表
現によって表現する変換過程に困難さを感じてい
る、といえる。

- ・イメージを、言葉や身体表現に変換する作業が難
しい
- ・皆の意見をまとめていく過程が難しい

また、4) - ②の結果より、主に以下2点の学び
があったことが示された。

- ・他者の感じ方や考え方を確認することに繋がり、
視野が広がり面白い。
- ・仲間との協働作業による喜びや達成感

4. まとめ

本研究の目的は、音楽の鑑賞教育における「体を動かす活動」のあり方を検討する基礎的研究として、曲想に身体反応することを通して、我々がどのような学びをするのか、ということを実例研究から検討することであった。

結果として、音楽から抱いたイメージを言語化する、という活動過程においては、必然的に音楽を注意深く聴き、楽曲の細部にも意識を向けられるようになり、楽曲への理解を深めることができた。しかし、その言語化されたイメージを身体表現に繋げていく過程では、音楽から受けたイメージを身体表現によって表現する、という変換過程に困難さを感じている学生の姿が見受けられた。また、そのような活動過程から得られた学びは、音楽的な学びではなく、仲間との協働作業による喜びや達成感であった。

筆者は、音楽の鑑賞教育において、動きのボキャブラリーを豊かにすることが学習の上で効果的であると考え、学生達の主体的な身体表現活動を尊重した。しかし、今回の事例研究では、結果的に、楽曲への理解を深めるための「体を動かす活動」ではなく、「動くことが目的」の活動になってしまったと言わざるを得ない。そして、その主な原因として、イメージを身体表現として表わす変換過程の困難さが挙げられた。手拍子や歩くといった皆が受け入れやすい身体表現を用い、その活動内容を工夫し深めることが有効なのではないか、という示唆を得ることができた。今後も音楽の鑑賞教育における「体を動かす活動」のあり方について検討を続け、どのようなあり方が理想的であるのか追究していく所存である。

【参考文献】

- 安彦忠彦監修 坪能由紀子・伊野義博編 (2008)『小学校学習指導要領の解説と展開 音楽編』教育出版
- 有本真紀 阪井恵 山下薫子編著 (2011)『教員養成課程 小学校音楽科教育法』教育芸術社
- 菅沼邦子 (2008)「小学校音楽鑑賞教育におけるプラスチック・アニメの可能性」広島女学院大学 論集 第58集 pp.69-81
- 橋本美保 田中智志監修 加藤富美子編著 (2015)『音楽科教育』一藝社 教育出版
- 宮野モモ子 本多佐保美編 (2009)『小学校音楽科教育法

—創造性あふれる音楽学習のために—
吉富功修 三村真弓編著 (2010)『第2版 小学校音楽科教育法 学力の構築をめざして』ふくろう出版